

市史編さん事業について

1. 事業の目的・概要

- 立川市史編さん基本方針（平成 28 年 3 月策定）にそって、平成 27 年度から実施。
- 諮問機関として立川市史編さん委員会を設置して基本的な事項を審議。
- 時代・分野ごとに、先史部会、古代・中世部会、近世部会、近代部会、現代部会、民俗・地誌部会の 6 つの専門部会を設置して編集を行う。
- 各専門部会では、関連する資料の収集や所在調査、地域の古老や自治会、社寺、老舗などからの聞き取り調査を継続して実施。
- 資料収集では多くの市民や団体から寄贈、借用の協力を得ている。
- 事業の成果は、「新編立川市史」として平成 29 年度より順次刊行。
- 市史編さん事業の周知を図るため普及啓発事業を行う。
- 当初平成 27 年度から令和 6 年度までの事業期間を 4 年間延長し、令和 10 年度までとする。

2. 編さん委員会・編集委員会について（令和 5 年度）

種 別	開催回数	内 容
編さん委員会	2 回	事業の進捗状況確認、収集資料の保存・活用について等
編集委員会	3 回	資料の収集・調査、資料編・通史編の編集について等

3. 市史の刊行について（平成 29 年度～令和 6 年度）

年度	書 名	判 型・頁 数・頒布価格
6	「資料編 近代 1」	B 5 判（予定）
	「資料編 現代 2」	B 5 判（予定）
5	「資料編 砂川の民俗」	B 5 判・2,500 円（予定）
	「資料編 写真集」	A 4 判・4,000 円（予定）
4	「資料編 先史」	B 5 判・602 頁・3,500 円
	「調査報告書 古代・中世編 1 古代中世の考古・石造物・美術工芸」	A 4 判・249 頁・2,000 円
3	「調査報告書 先史編 2 大和田遺跡 第 1・3・4 地点発掘調査資料 再整理報告書」	A 4 判・206 頁・900 円
	「調査報告書 先史編 3 立川市域の古墳時代」	A 4 判・86 頁・600 円
2	「資料編 近世 1」	B 5 判・604 頁・2,500 円
	「資料編 近代 2」	B 5 判・580 頁・2,500 円
	「調査報告書 民俗・地誌編 2 柴崎の口承文芸」	A 4 判・122 頁・600 円
31	「資料編 古代・中世」	B 5 判・604 頁・2,500 円
	「資料編 現代 1」	B 5 判・579 頁・2,500 円
	「資料編 柴崎の民俗」	B 5 判・535 頁・2,500 円

30	「資料編 地図・絵図」	A 4 判・190 頁・3,000 円
	「調査報告書 先史編 1 向郷遺跡 竹内勇貴氏寄贈資料調査報告」	A 4 判・177 頁・1,000 円
	「調査報告書 民俗・地誌編 1 砂川青年団資料集」	A 4 横判・550 頁・1,500 円
29	「調査報告書 近世編 1 鈴木家文書目録」	A 4 判・249 頁・1,000 円

※編さん計画では、本編（通史編）2冊、資料編12冊、別編4冊、調査報告書7冊を刊行予定

4. 写真資料の収集について（令和5年度）

○令和5年度刊行予定の「資料編 写真集」に向けて、広報等を通じて市民に写真提供を呼び掛けた結果、市民からの提供写真のうち146点を掲載する予定である。

5. 普及・啓発事業について（令和5年度）

○市史編さん広報紙「たちかわ物語」の発行（A4判、四色刷り、12頁、各3,000部）

- ・第16号 令和5年9月20日発行
- ・第17号 令和6年3月21日発行（予定）

○立川市史編さん事業関連講演会

日 時	令和6年1月21日（日） 午後1時～4時
会 場	女性総合センター・アイム1階ホール
テ ー マ	中世立川の石造物
講 師	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤宏之（立川市史編さん古代・中世部会編集委員・大正大学准教授） 「立川市域の中世石造物―調査成果の概要―」 ・村山 卓（立川市史編さん古代・中世部会特定部会委員・ 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団資料活用部整理課長） 「普濟寺六面石幢の造立背景―埼玉県の石幢との比較から―」
参加者	78名

○立川市史編さん事業関連展示（予定）

「米国国立公文書館立川市関係写真資料調査」の調査結果を市民に還元するため、米国国立公文書館から収集した、昭和20～30年代の立川基地の施設や活動、地域との交流等の写真を主に展示する。また、歴史民俗資料館所蔵の写真や、令和5年度刊行予定の「資料編 写真集」に掲載するものも一部展示する。

期間 令和6年3月1日（金）から3月7日（木）まで

会場 立川市役所1階多目的プラザ

期間 令和6年3月18日（月）から3月31日（日）まで

会場 女性総合センター・アイム1階ギャラリー

6. 今後の課題について

○市史資料や歴史的公文書等を将来にわたって適正に保存・管理し、公開・活用に向けた基盤整備や方法を検討する必要がある。